

会 議 録

会議名 (付属機関等名)	市立川西病院あり方検討委員会(第4回)		
事務局(担当課)	総合政策部政策推進室政策課		
開催日時	平成25年2月6日(水) 午後7時から午後9時まで		
開催場所	川西市役所4階 庁議室		
出席者	委員	(別紙委員名簿のとおり)	
	その他	水田副市長、姫野病院事業管理者、丸山病院長	
	事務局	本荘総合政策部長、石田政策推進室長、飯田政策課長、笠島政策課員 山田経営企画部長、矢吹看護部長、芝経営企画室長、新田経営企画課長	
傍聴の可否	可	傍聴者数	1人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	(別紙会議次第のとおり)		
会議結果	(別紙審議経過のとおり)		

市立川西病院あり方検討委員会委員名簿

平成 25 年 2 月 6 日現在

(敬称略 / 五十音順)

	委員氏名	職業等	選出基準	備考
1	甲斐 良隆	関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科教授	学識経験者	
2	加門 文男	川西市コミュニティ協議会連合会理事	市民・利用代表者	
3	竹本 博行	川西市医師会会長	医師会代表者	副委員長
4	土岐 祐一郎	大阪大学大学院医学系研究科外科学(消化器外科)教授・大阪大学医学部附属病院消化器外科 診療科長	学識経験者 (医師派遣大学代表者)	
5	難波 光義	兵庫医科大学内科学糖尿病科主任教授・兵庫医科大学病院 副院長	学識経験者 (医師派遣大学代表者)	委員長
6	西 育良	公認会計士	学識経験者	
7	松本 圭司	兵庫県阪神北県民局伊丹健康福祉事務所長	地域医療関係行政機関の職員	

市立川西病院あり方検討委員会（第4回）会議次第

日時：平成25年2月6日（水）

午後7時～

場所：川西市役所4階 庁議室

1 開会

2 委員長あいさつ

3 議事

(1) 市立川西病院に関するアンケート調査結果の概要について

(2) アンケート結果を踏まえた市立川西病院のあり方の検討について

4 その他

5 閉会

審 議 経 過

発言者	発 言 内 容 等
	<p><u>市立川西病院に関するアンケート調査結果の概要について</u></p> <p>事務局説明</p> <p>受診したいと思う医療機関について</p> <p>がん末期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ がん末期になった場合、どの病院にいけばいいのかわからないと回答した人が特に多い。市民病院の役割が期待されるところである。 ・ 利用した事がないを選択した人は、川西病院への評価も低いいため、もう少し認知度を上げてもいいのではないか。 <p>がん末期の場合は、不安であるし、家族の負担軽減のためにも、家族の近くで療養したい。終末ケアも一つの方法である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 超高齢化社会に伴い、がん治療は重要項目である。 ・ 急性期・維持期・緩和期などの治療段階に応じ、サービスのあり方を検討すべき。 <p>小児科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今回は川西市民が対象だが、3町がアンケート対象になると、小児に限らず結果は変わってくるだろう。 ・ 利用したことがある・ないに関わらず、子供の病気においては川西病院を選択する割合が低いのは問題である。 <p>熱などの軽い病気でも川西病院では待ち時間がかかってしまうため、個人医院を利用する傾向にあるだけではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子供の病気なら、地域別では、北部、中部、南部の順でニーズが高い。 <p>全体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市民は、受診したい医療機関を病院の属性で使い分けられていることがうかがえる。川西病院が全てを網羅する必要はない。 ・ 健診ドック、相談管理は期待度が高い。何が期待されているのか選別していくべき。 <p>阪神北地域では、圏域を越えて近隣の病院を利用する人が多いため、妥当な結果だろう。</p>
委員	
委員	
委員長	
副委員長	
委員	
事務局	
委員	
委員	

発言者	発言内容等
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用したことのある人が受診したいと思っているのは良い傾向である。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 長期入院の定義がはっきりしないため、一定の整理が必要である。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 川西病院ならではの強みを打ち出せるなら、利用したことがない人への情報提供も必要である。市民が便利に思えるよう工夫願いたい。
	<p>待ち時間について</p>
副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用したい・利用したくないに関わらず、待ち時間に対する評価が低い、病院側は認識しているか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 待ち時間調査では、泌尿器科が比較的長い。 ・ 廊下が待合になっているため、時間の割に苦痛を感じる傾向にある。 ・ 待ち時間の短縮及び待つことに対する苦痛改善策について検討していきたい。
	<p>市立川西病院の必要性について</p>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 北部では継続を希望する市民が多いが、南部の方は割り切っている印象がある。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 北部・中部・南部の各地域の中で、さらに何%の人が継続を希望しているのか出してほしい。 ・ 意外に中部の支持が多いのは良い。 ・ 民間病院との比較があれば、サービス向上につながるのではないか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計算してみると、北部の中では8割、中部では6割、南部では5割の人が継続を希望している。 ・ 一方、近隣にも関わらず、北部の人の川西病院に対するイメージが良くない。実情を知っている人が実際に嫌がっているというのは残念である。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 評価では「親切に世話をしてくれる」が高い。 ・ 一方、「機器の充実」が高いにも関わらず「専門性」が低いのは問題である。 ・ また、必要性で、民間へ譲渡すべきとする理由は、一つは、財政状況改善のため、もう一つはサービス向上のための2種類が想定される。 ・ どちらの理由かで対策が大きく変わるため、混在すべきではない。きめ細かい分析が必要である。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 民間譲渡の理由としては、よく利用する北部の人はサービス向上のため、あまり利用しない中・南部の人は財政状況改善のためといったところだろう。

発言者	発言内容等
委員	<ul style="list-style-type: none"> 得意分野に特化して、財政とのバランスを取ることが最重要である。 自家用車の利用者が多いなどの特徴に応じたサービス展開が必要である。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 「アンケートを始める前に」において説明のある、川西病院の厳しい経営状況を踏まえてもなお継続を希望する人が6割いるとしたら、かなり重みがある。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> 市民が期待することを検証し、川西病院の特徴を生かして他病院との住み分けをしっかりと行うべき。そうすれば、必ずしも民間譲渡を行わなくても経営状況改善の可能性はある。 ただし、立地については慎重な検討が必要である。
委員	<p>委員提供資料について</p> <ul style="list-style-type: none"> 財政状況が非常に厳しかった明石市民病院は、平成23年10月に独立行政法人化した結果、財政再建に成功している。 当時、消化器内科や小児科が閉鎖しかけていたが、独法化により医師数が増え、医師及び職員の意識が変わったとのことである。 また、開業医との連携により、紹介率は65%以上になり、来年は地域医療支援病院の申請を考えている。 なお独法化後は、医師数は満たされているが看護師が不足しているため、現在400床のうち100床が休床中である。 赤字の理由などは個々の病院により違うため、あくまで回復の一例と考えてほしい。
委員長	<p>アクセスについて</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢で自家用車が運転できなくなった人は通えない。コミュニティバスなどの活用はどうか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 駅と病院の無料往復であれば単独実施が可能かもしれないが、バスの路線自体を増やすのは難しい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 県医務課の立場としては、1つの病院だけを回る無料バスは好ましくない。市立芦屋病院の循環バスは、複数の病院を経由している。 ただし、神戸市の百年記念病院など例外もあるため、詳細については確認が必要である。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 数年前、市が川西病院への循環バスの試行運転を行った際は、川西病院のみに

発言者	発言内容等
	<p>行く単独ルートは評判が悪かった。仮にバスを検討するなら、路線は慎重に決定すべき。</p> <p>診療科・専門性について</p>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門性があまり良い評価ではないことについては、どう思われるか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医師派遣側の立場としても、診療科の集約は避けられない。 ・ しかし、内科、消化器、循環器、外科など基本となる診療科は整備していく必要がある。 ・ 医師としては、川西病院は決して来にくい立地ではない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 結果をみると継続が6割だが、民間譲渡のうえ継続を希望する人も考慮すると、9割位は継続になると考えられる。 ・ 期待する役割では、救急に加え、病気の予防やかかりつけ医との連携が高い。 ・ つまり市民病院でないといけないもの、公平性・信頼性が求められるものについては、フェアな立場で継続してほしいと市民は思っている。そのうえで、さらに追加できる分野を考えていくべき。
病院長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門性については他病院に比べても劣らない。 ・ 市民の期待に従い、救急は引き続き強化していく。 ・ そのためにも、医師の増員には力を入れていく。4月からは小児科、内科、外科の増員が決まっている。 ・ 整形外科は特に外来需要は多いが、常勤医の確保については努力中である。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 整形外科の救急では、高齢化に従い大腿部骨折の患者が多いが、手術においては整形外科医1人では対処できないため、現時点では外来しか扱えない。 ・ しかし、周辺病院で、整形外科の救急を受け入れるラインが既にできているため、今川西病院での整形外科の救急を整備するよりも、他に期待が高い分野を強化する方が得策である。
	<p>まとめ</p>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 診療科も充実し、徐々に良循環が生まれている。良いタイミングでのアンケートだったと思われる。 ・ 今後、アンケートをどのようにまとめていくのか。
副市長	<ul style="list-style-type: none"> ・ アンケートは今後のあり方を決める1つの参考としたい。 ・ 診療科、立地、経営形態などは今後の課題としても、川西病院は継続の方向と

発言者	発言内容等
事務局	<p>なりそうである。</p> <p><u>次回の予定について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 次回は、第1回から第4回までの意見のまとめ及びアンケート結果を一定整理したものについて議論いただく予定である。 <p style="text-align: right;">以上</p>

市立川西病院に関するアンケート調査結果 の概要について

平成25年2月

川西市

アンケート調査の概要

1) 発送数・回答者数について

住民基本台帳から16歳以上の市民3,000人を無作為に抽出のうえ郵送し、平成24年11月27日～12月17日までの間に回答をいただきました。

発送数 3,000人
 回答数 1,318人
 回答率 43.9%

[表1]

発送先詳細 小学校区名	発送数	
	人数	割合
牧の台地区	212	7.1%
東谷地区	253	8.4%
北陵地区	157	5.2%
緑台陽明地区	276	9.2%
けやき坂地区	107	3.6%
清和台・清和台南地区	284	9.5%
多田地区	179	6.0%
多田東地区	265	8.8%
明峰地区	274	9.1%
久代地区	176	5.9%
加茂地区	202	6.7%
川西地区	248	8.3%
桜が丘地区	177	5.9%
川西北地区	190	6.3%
合計	3,000	100.0%

[表2]

エリア名	エリア別発送割合		回答者	
	人数	割合	回答数(割合)	対発送回収率
北部	622	20.7%	311 (23.6%)	50.0%
中部	1,385	46.2%	594 (45.0%)	42.9%
南部	993	33.1%	358 (27.2%)	36.1%
不明他	-	-	55 (4.2%)	-
	3,000	100.0%	1,318 (100%)	43.9%

2) 発送・回答について

◆ 発送について

市内の各小学校区ごとに年齢別の人口分布割合に応じて均等に発送しています。[表1,3]

◆ 回答について

・エリア別発送割合と回答率は、南部の回答率が若干少ないものの、ほぼ同じような割合になっています。[表2]

・対発送回収率は、北部は50%になっており、中部・南部の順で少なくなっています。[表2]

・人口割合が多い中部は、発送数も多くなるため、全回答数に占める割合は、45%となっています。

[表2]

[表3]

年齢構成	発送数	回答数(率)	対発送回収率
16～29歳	463	84 (6.4%)	18.1%
30～39歳	458	161 (12.2%)	35.2%
40～49歳	514	185 (14.0%)	36.0%
50～59歳	359	183 (13.9%)	51.0%
60～69歳	535	311 (23.6%)	58.1%
70～79歳	452	285 (21.6%)	63.1%
80歳～	219	84 (6.4%)	38.4%
不明	-	25 (1.9%)	-
合計	3,000	1,318 (100%)	43.9%

[表4]

項目	回答数	率
1.入院したことがある	589	45%
2.入院はしていないが病院を探したことはある	294	22%
3.該当なし	184	14%
99.無回答、無効回答	251	19%
総計	1,318	100%

3) 回答者の属性について

◆ 性別

男・女50%ずつ発送

回答状況 男504(38.3%) 女744(56.4%)

不明69(5.2%)

◆ 入院等の有無

入院したり、病院を探したことがある方は、回答者の約7割近くおり、病院の具体的なイメージを持ったうえでアンケートに回答いただいたと思われます。[表4]

アンケート調査結果における各項目の表記について

問2 Aの設問 ~ と問6の設問 1 ~ 11.は、対応した設問となっています。対応する各項目について共通の簡略化した文章・記号を用いています。

問2-Aの設問

健康診断や人間ドックなどを受診したい時
 出産を迎えた時
 子供が病気をした時
 夜間の急病や交通事故にあった時
 入院を伴う手術を受ける時
 リハビリを受ける必要がある時
 長期にわたる入院が必要となった時
 訪問看護や往診など在宅医療の支援が必要な時
 命にかかわるような病気になった時（がん、心疾患、
 脳血管疾患など）
 がんなどで末期を迎えた時
 健康や病気についての相談、予防、治療、疾病管理など総合的なサービスを受けたい時

問6の設問

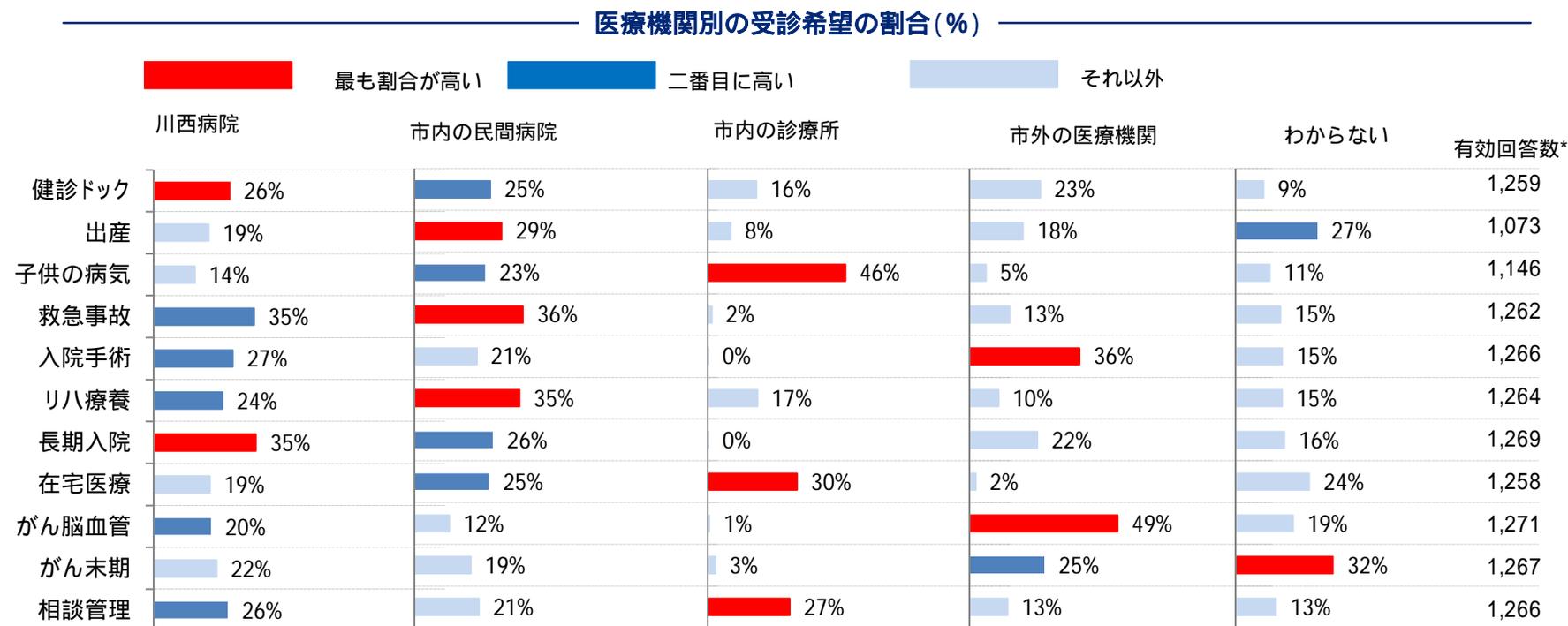
1. 病気の予防や早期の発見に力を入れる（健康診断や人間ドックなどの充実）
2. 母子の健康管理や出産に対応してもらえる
3. 子供の病気に対応できる
4. 夜間救急や交通事故などの救急患者を積極的に受け入れる
5. 入院を伴う手術などが行える
6. 手術など重度な状態を脱した後、リハビリや療養などを行う
7. 長期にわたる入院が必要となった場合に入院できる
8. 訪問看護や往診など在宅医療の支援を行う
9. 命に関わるような病気の患者が入院できる
10. がんなどで末期を迎えた患者・ご家族の方々に安心できる療養環境を提供できる
11. 健康や病気についての相談、予防、治療、疾病管理など総合的なサービスを受けられる
12. かかりつけ医と連携して、地域の医療水準の向上に貢献できる
13. 介護施設等の施設を併設している
14. 特になし

共通した文章・記号

健診・ドック	リハ療養
出産	長期入院
子供の病気	在宅医療
救急事故	がん・脳血管
入院手術	がん末期
	相談・管理

12. 「かかりつけ医との連携で地域の医療水準の向上」
 13. 「介護施設の併設」
 については、分野の違いや医療機関等の立場によって比較が難しいため問2Aの質問からは外しています。

問2-A: 受診したいと思う医療機関(全体n=1318)



川西病院

- 長期入院、健診ドックについては最も割合が高いが、他の項目については、二番目に高い項目が多くなっています。
- 出産、子供の病気については、低い結果となっています。

市内の民間病院

救急事故、リハビリ、出産が最も割合が高くなっています。

市内の診療所(個人医院)

子供の病気、在宅医療、相談管理など、比較的軽度で身近な項目について割合が高くなっています。

市外の医療機関

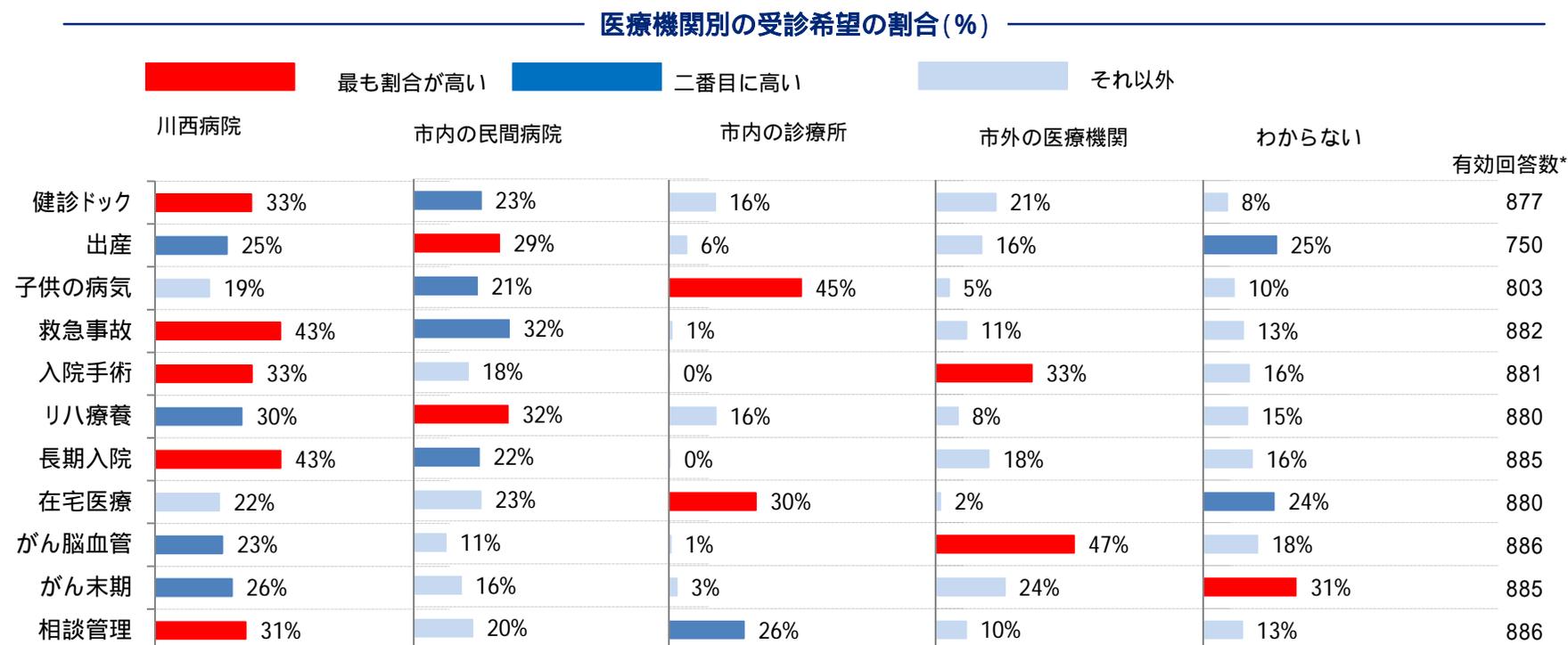
がん脳血管、入院手術といった重篤な症状の項目について、最も割合が高く、二番目の差が大きくなっています。

わからない

- がん末期、出産について高い割合になっています。
- がん末期については川西病院の緩和ケアの認知度がまだ低い可能性があります。

有効回答数*...全回答(1318)のうち、問2-Aについて無回答、不明を除く各設問に対する回答数

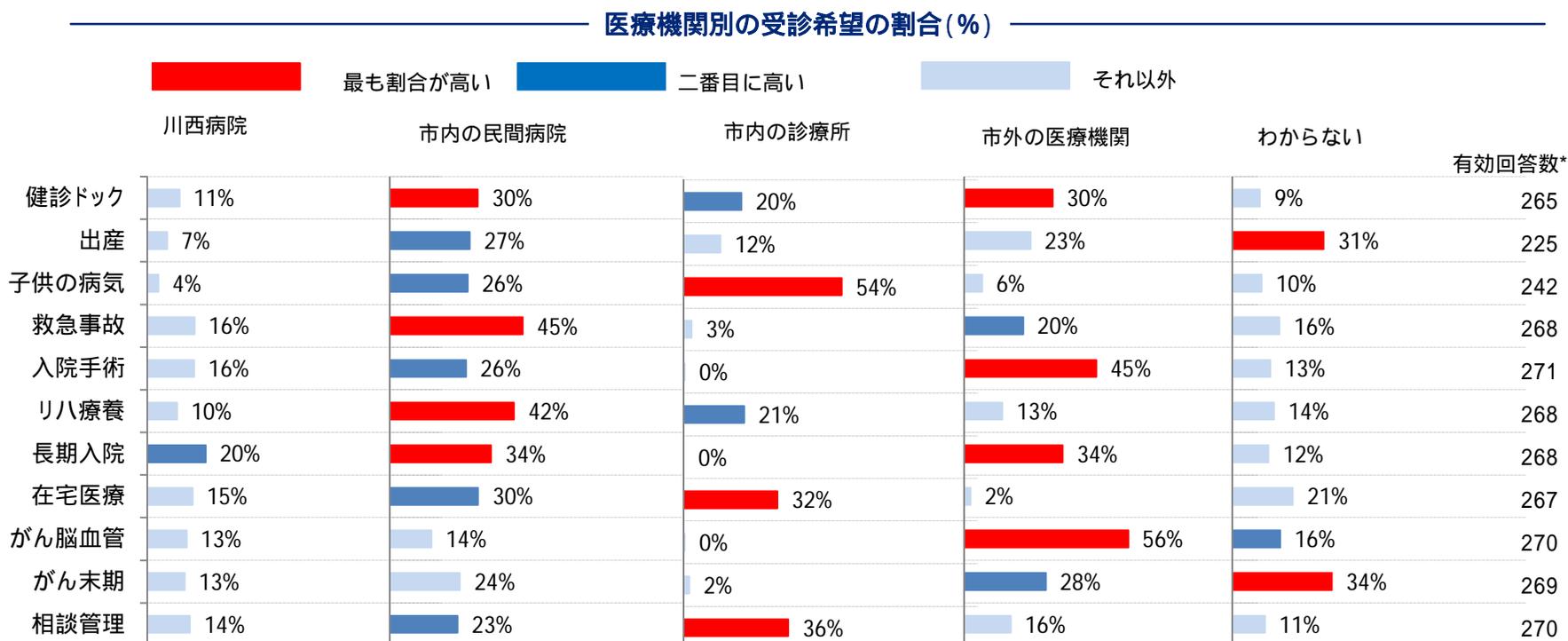
問2-A: 受診したいと思う医療機関 (問3-B: 利用したことがあるn=914)



- | | | | | |
|---|--|--|---|--|
| <p>川西病院</p> <ul style="list-style-type: none"> 川西病院を利用したことがある方は、全体的に受診希望が高い結果となっています。 子供の病気、在宅医療については、市内の診療所（個人医院）への受診希望と相関関係にあると思われます。 | <p>市内の民間病院</p> <p>民間病院での受診希望は、リハビリ、出産が最も高い割合となっています。</p> | <p>市内の診療所(個人医院)</p> <p>子供の病気、在宅医療については、最も受診希望が高く、そのほか生活に根付いた医療について割合が高くなっています。</p> | <p>市外の医療機関</p> <p>がん脳血管、入院手術の困難治療については、川西病院を利用したことがあっても市外の医療機関への受診希望が高い結果となっています。</p> | <p>わからない</p> <p>がん末期が高い割合になっており、川西病院の緩和ケアに対する認知度が十分でないことが考えられます。</p> |
|---|--|--|---|--|

有効回答数*...問3-Bで利用した事がある全回答（914）のうち、無回答、不明を除く各設問に対する回答数

問2-A: 受診したいと思う医療機関 (問3-B: 利用したことが無い n=279)



川西病院

川西病院を利用したことがない方は、受診したいと思う項目がいずれも低い結果となっています。

市内の民間病院

- 民間病院の受診希望が最も高い項目は、救急医療、リハ環境となっています。
- 特にリハ環境については、川西病院の利用のあるなしに関わらず同じ項目で高い割合となっています。

市内の診療所(個人医院)

子供の病気、相談管理、在宅医療について最も受診希望が高いなど、生活に根付いた医療について割合が高くなっています。

市外の医療機関

がん脳血管等の困難治療が特に高く、川西病院を利用していない方の半分以上が市外に医療機能を求めていることが考えられます。

わからない・無回答

がん末期、出産について、わからないと答えた方が他項目より多くなっています。

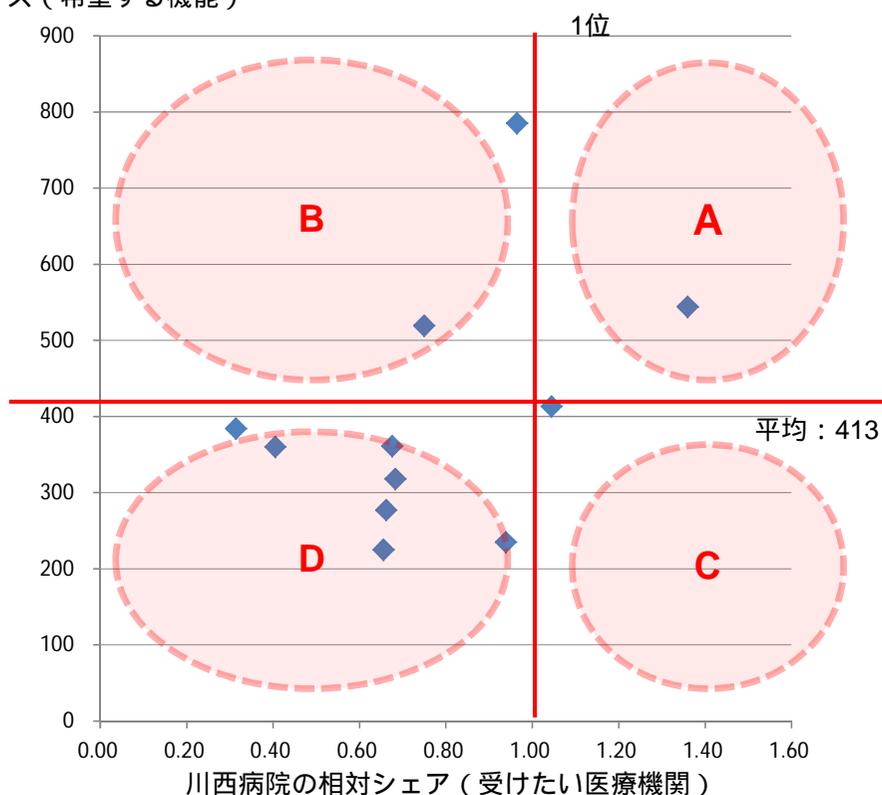
有効回答数*...問3-Bで利用した事がない全回答(279)のうち、無回答、不明を除く各設問に対する回答数

問2-A、問6:希望する機能と受けたい医療機関(全回答 n=1318)

ニーズの高い領域では川西病院のシェアは1位前後となっていますが、出産・子供の病気・がんなど、川西病院が機能を有している領域のシェア、ニーズはともに低くなっています。

川西病院に対する
ニーズ(希望する機能)

川西病院における相対シェアと希望する医療機能



- 相対シェア...1.00以上では川西病院が1位で、右に行くほど2位とどれ程の差をつけているか、1.00以下では、川西病院は2位以下で、1位とどれ程差をつけられているかを表示しています。
- 川西病院に対するニーズ...問6で14項目のうち1~11までの機能について選ばれた回答数となっています。(1人5つまで選択可能)

各番号が示す分野・領域(P3参照)

健診・ドック
 出産
 子供の病気
 救急事故
 入院手術
 リハビリ療養
 長期入院
 在宅医療
 がん・脳血管
 がん末期
 相談・管理

各領域の特徴

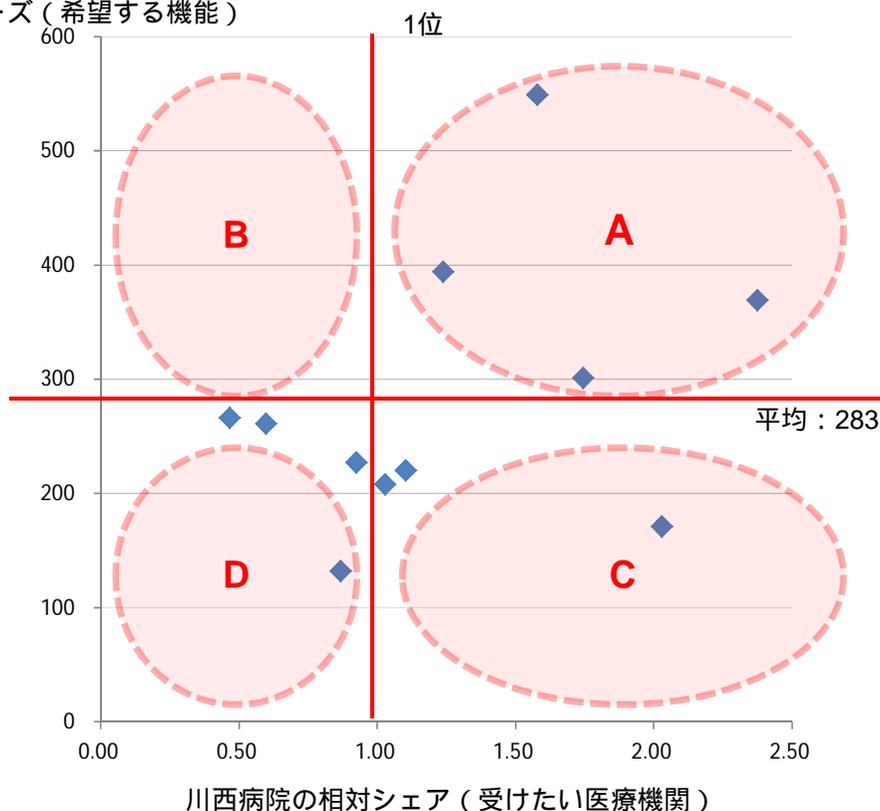
- A. シェア1位を取り、かつ希望数の多い領域
維持・強化する必要がある分野
- B. シェアは2位以下であるが、希望数の多い領域
ニーズは多く、強化を検討すべき分野
- C. シェアは1位であるが、希望数はそれほど多くない領域
希望が分散しており、役割が果たせる程度に維持すべき分野
- D. シェアは2位以下で、希望数はそれほど多くない領域
希望が分散しており、特徴を出せるように強化する分野

問2-A、問6:希望する機能と受けたい医療機関(問5 Aで継続希望 n=818)

川西病院の継続を希望している方の中で、ニーズが平均よりも高い項目についてはシェアも1位となっています。

川西病院に対する
ニーズ(希望する機能)

川西病院における相対シェアと希望する医療機能



- 相対シェア...1.00以上では川西病院が1位で、右に行くほど2位とどれ程の差をつけているか、1.00以下では、川西病院は2位以下で、1位とどれ程差をつけられているかを表示しています。
- 川西病院に対するニーズ...問6で14項目のうち1~11までの機能について選ばれた回答数となっています。(1人5つまで選択可能)

各番号が示す分野・領域(P3参照)

健診・ドック
 出産
 子供の病気
 救急事故
 入院手術
 リハビリ療養
 長期入院
 在宅医療
 がん・脳血管
 がん末期
 相談・管理

各領域の特徴

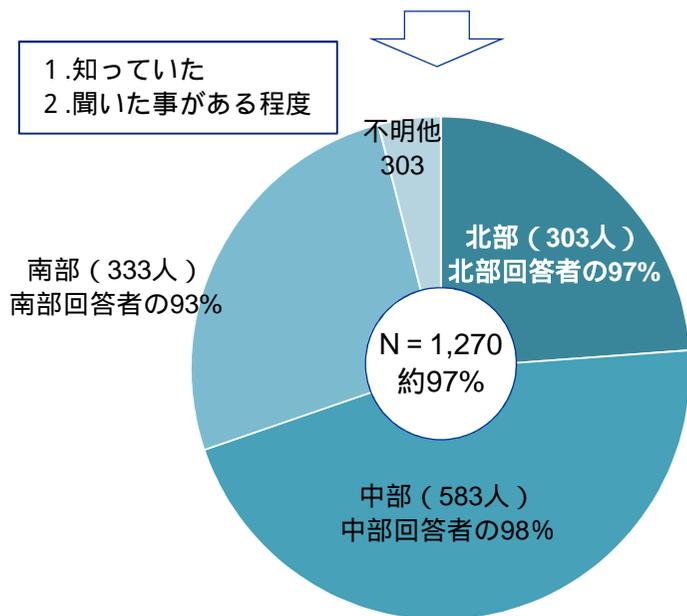
- A. シェア1位を取り、かつ希望数の多い領域
維持・強化する必要がある分野
- B. シェアは2位以下であるが、希望数の多い領域
ニーズは多く、強化を検討すべき分野
- C. シェアは1位であるが、希望数はそれほど多くない領域
希望が分散しており、役割が果たせる程度に維持すべき分野
- D. シェアは2位以下で、希望数はそれほど多くない領域
希望が分散しており、特徴を出せるように強化する分野

問3: 市立川西病院の知名度について

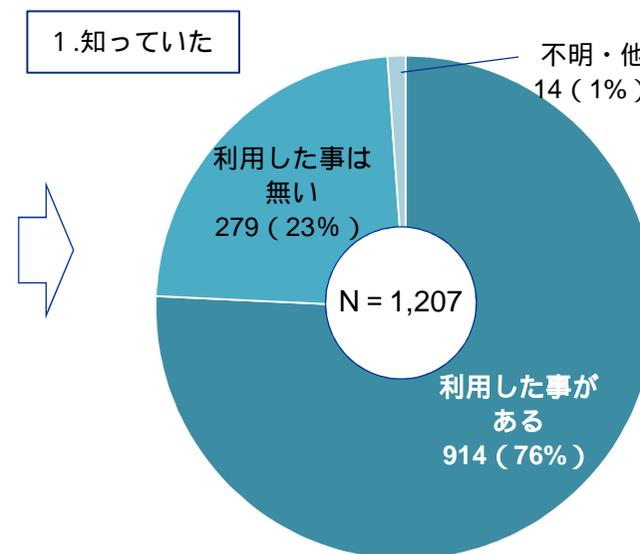
回答者の約9割の方が川西病院を知っており、そのうち約7割の方が地域でばらつきはあるものの利用したことがあると答えています。

川西病院を知っているか

回答結果	回答者数	割合
知っていた	1,207	92%
聞いた事がある程度	63	5%
このアンケートで知った	30	2%
不明、無回答	18	1%
総計	1,318	100%



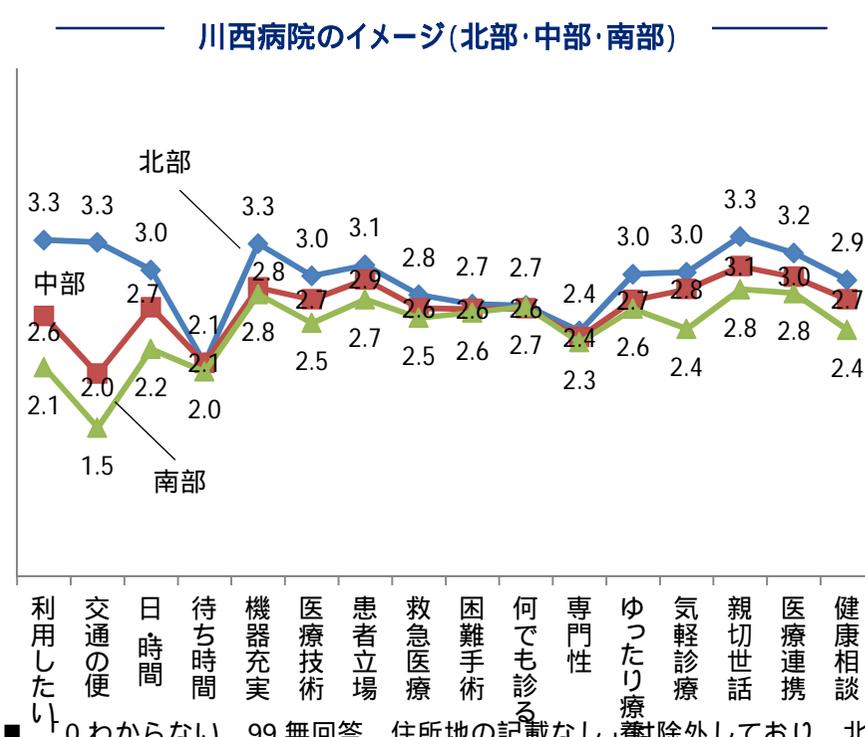
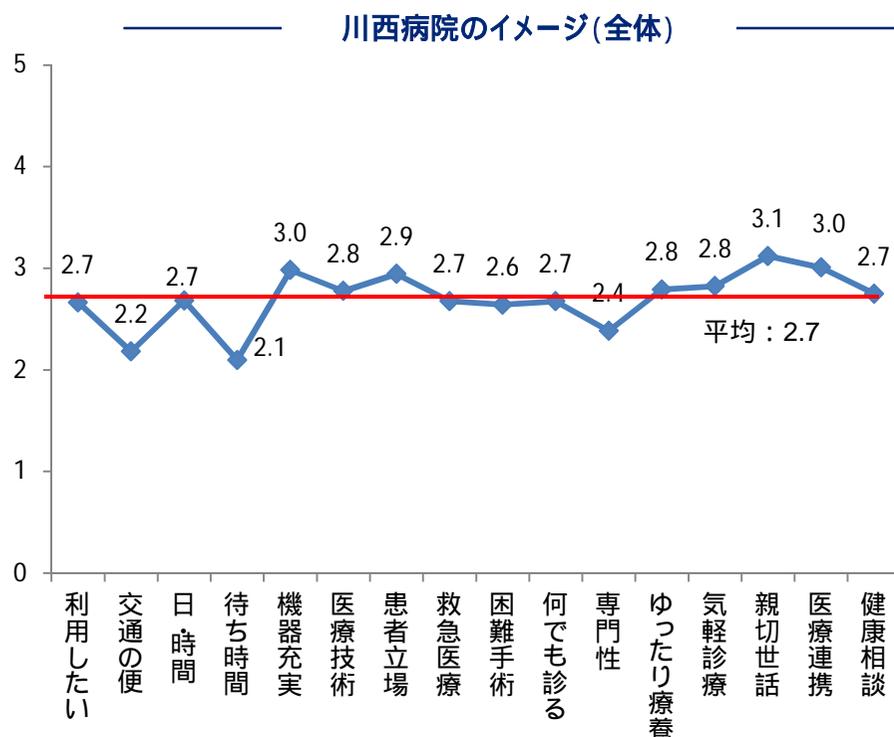
川西病院を利用したことがあるか



利用経験割合/地域	北部	中部	南部	不明・他	合計
利用した事がある	288	455	136	35	914
全回答者数	311	594	358	55	1,318
利用経験割合	92.6%	76.6%	38.0%		69.3%

問4: 川西病院のイメージ (n=1318)

平均値以下の項目が半数以上みられ、地域差のある項目もみられます。



- 問4の各項目の有効回答のうち各項目について1～5を選択された方で「5.そう思う」を5点～「1.そう思わない」を1点として各項目の平均を算出しています。

各項目の「0.わからない、99.無回答」は除外しています。

- 「利用したい」はほぼ平均、「交通の便」「専門性」「待ち時間(が短い)」は平均より低く、なかでも、「待ち時間(が短い)」は平均が一番低くなっています。

- 「0.わからない、99.無回答、住所地の記載なし」は除外しており、北部 n=311、中部=594、南部=n=358となっています。

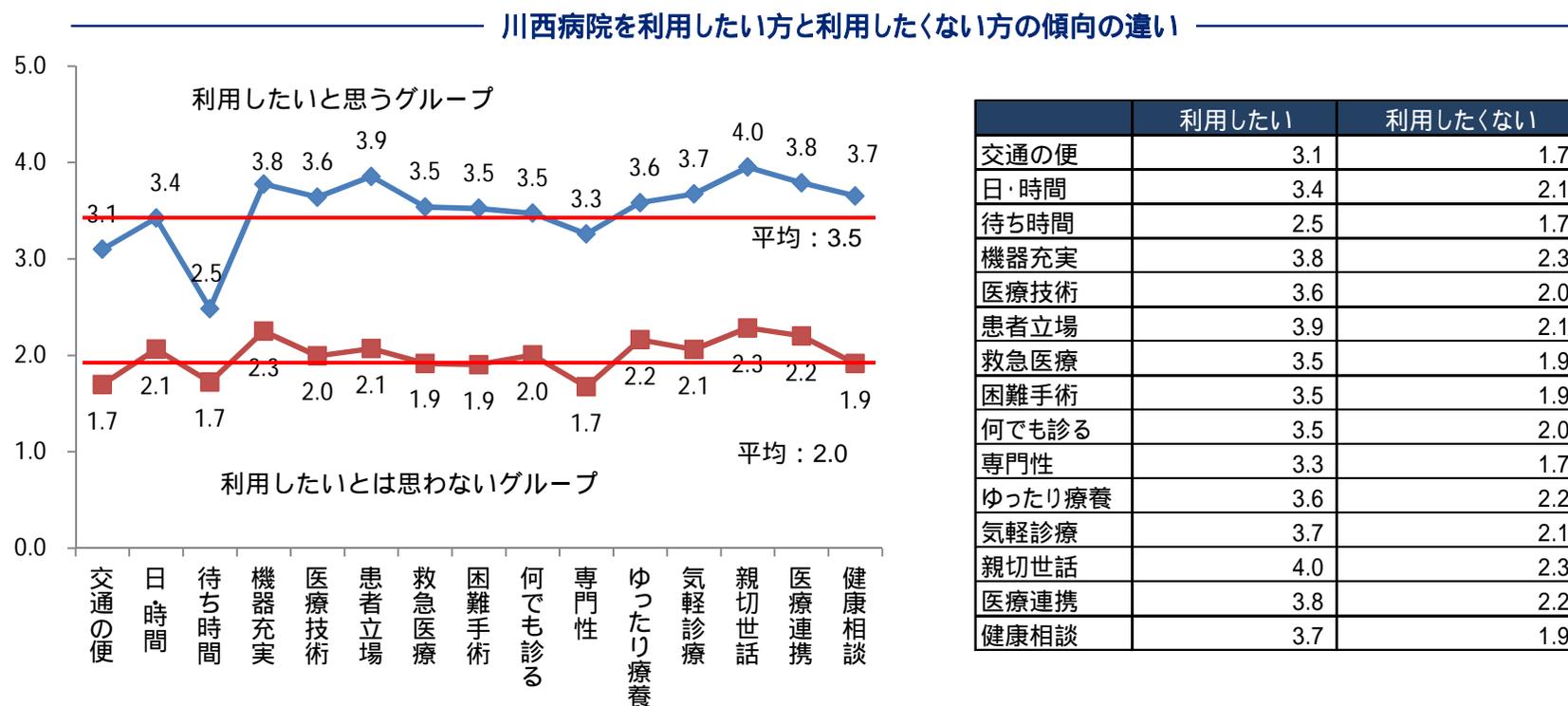
- 「利用したい」は、病院から遠くなるとともに割合は少なくなっています。

- 「待ち時間(が短い)」「専門性」については、各地域で共通して、他の項目より平均が低くなっています。

- 「親切世話」「患者立場」「医療連携」のイメージがいずれの地域も他項目より高く、かかりつけ医型のイメージが強いと思われます。また、「機器の充実」については全体的に充実しているイメージを持っていると思われます。

問4:川西病院のイメージ(問4 :利用したい方と利用したくない方の傾向の違い)

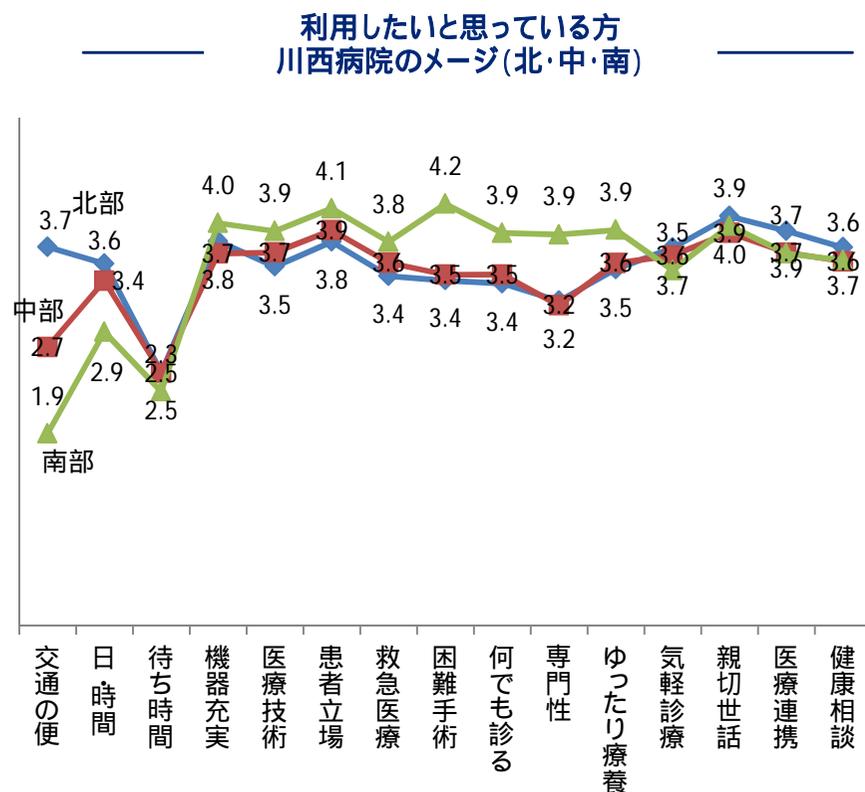
利用したい方は、川西病院の「患者立場」「親切世話」を高く評価しており、利用したい理由のひとつとなっています。



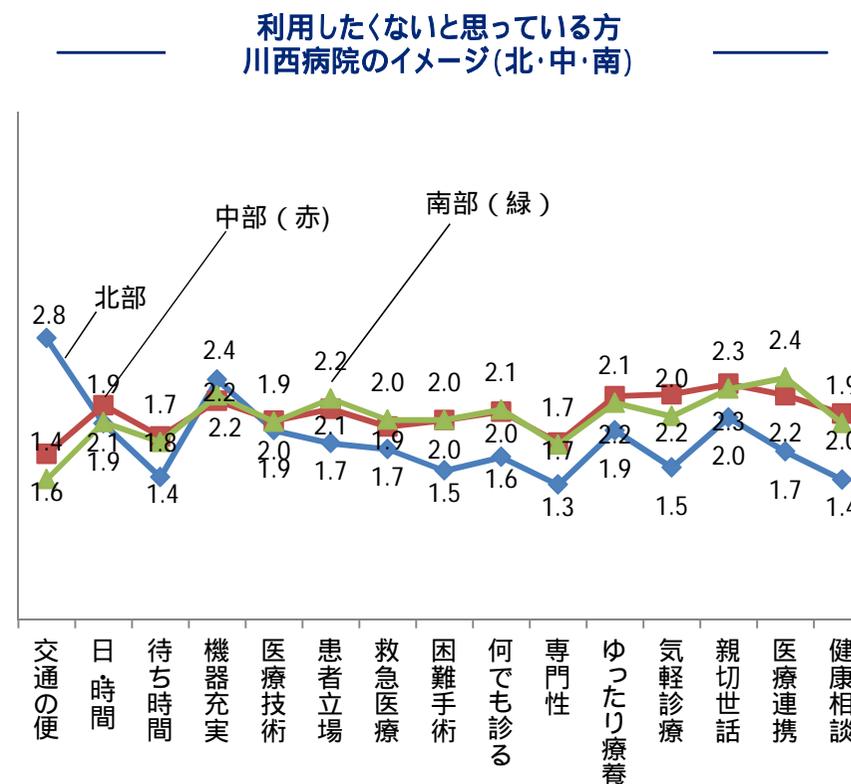
- 「機器充実」「患者立場」「親切世話」「医療連携」については、どのグループも平均より高く、利用したいと思うグループがより満足していると思われます。
- 「交通の便」「待ち時間（が短い）」「専門性」については、両方のグループが平均以下となっていますが、「待ち時間（が低い）」については両方のグループの多くの方が不満を持っていると思われます。

問4: 市立川西病院のイメージ(問4 : 利用したい方と利用したくない方の地域別詳細)

利用したいと思う方の中でも南部在住の方の評価が高く、利用したくないと思う方の中では、北部在住の方の評価が低い傾向にあります。



- 北部n=153、中部n=141、南部n=38となっている。住所地の無回答の場合は除外しています。
- 「交通の便」は地域によって評価が異なり、「待ち時間」については、各地域とも共通してあまりいい評価になっていません。
- 「困難手術」「専門性」については、南部在住の方は比較的评价しているのに対し、北部、中部在住ではあまりいい評価になっていません。

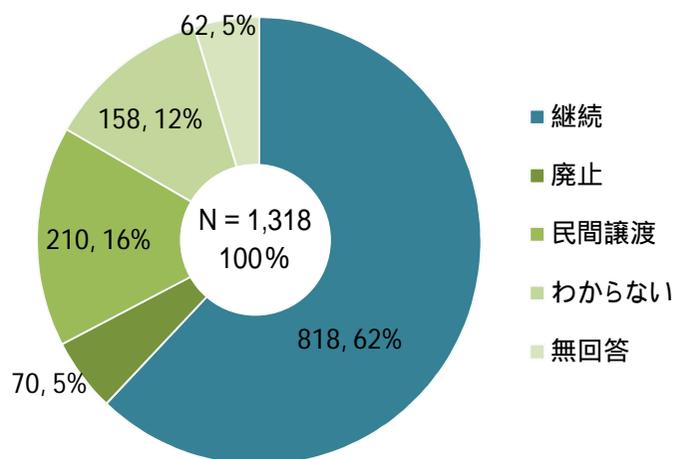


- 北部n=77、中部n=242、南部n=166となっています。住所地の無回答の場合は除外しています。
- 利用したくないと思っている方でも、南部、中部在住の方の印象は北部在住の方に比べて比較的好い傾向にあります。

問5: 病院の必要性について

川西病院の必要性については「継続」と答えた方が最も多く、次いで「民間に譲渡」が多くなっています。継続と答えた方は、中部在住が最多となっています。

市立川西病院の必要性



- 必要性については、全回答者のうち、62%が継続が望ましいと考えています。次いで、民間に譲渡が16%、わからないが12%、廃止が5%となっています。

居住地による必要性の違いについて

規模/住所	北部	中部	南部	無回答他	総計
継続	248	356	186	28	818
%	30%	44%	23%	3%	100%
廃止	7	32	27	4	70
民間譲渡	36	105	63	6	210
わからない	15	75	58	10	158
無回答	5	26	24	7	62
総計	311	594	358	55	1,318
全体に対する継続の割合	80%	60%	52%	51%	62%

- 継続と答えた818人のうち、地域別では中部在住の方が一番多くなっています。また、中部在住の回答者のうち、約60%（356人/594人中）の方が継続を希望していることとなります。
- 現在の病院から離れるに従い、継続希望の意見は減っていく傾向にあります。

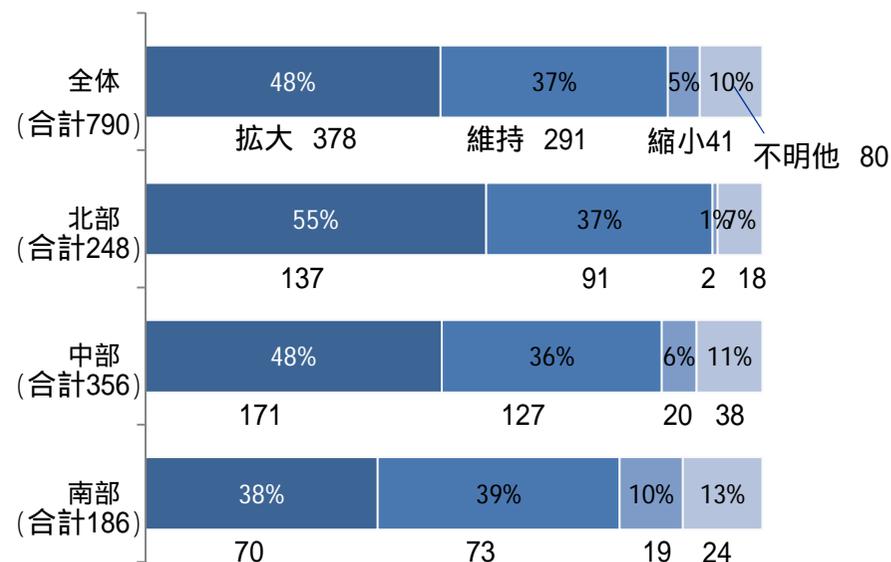
問5: 継続の場合の立地と規模について

北部地域での継続を希望する方は北部・中部在住に多く、規模については拡大、現状維持を希望する方が多くなっています。

どこで継続するのか

住所別の病院機能の拡大・現状維持・縮小

希望地 / 住所	北部		中部	南部		わからない他	合計
	現在地	現在地以外		JR線以北	JR線以南		
北部在住	208	14	10	4	0	12	248
中部在住	119	15	128	65	11	18	356
南部在住	18	7	42	80	27	12	186
わからない	1	0	0	0	0	1	2
無回答	12	1	10	2	1	0	26
合計	358	37	190	151	39	43	818



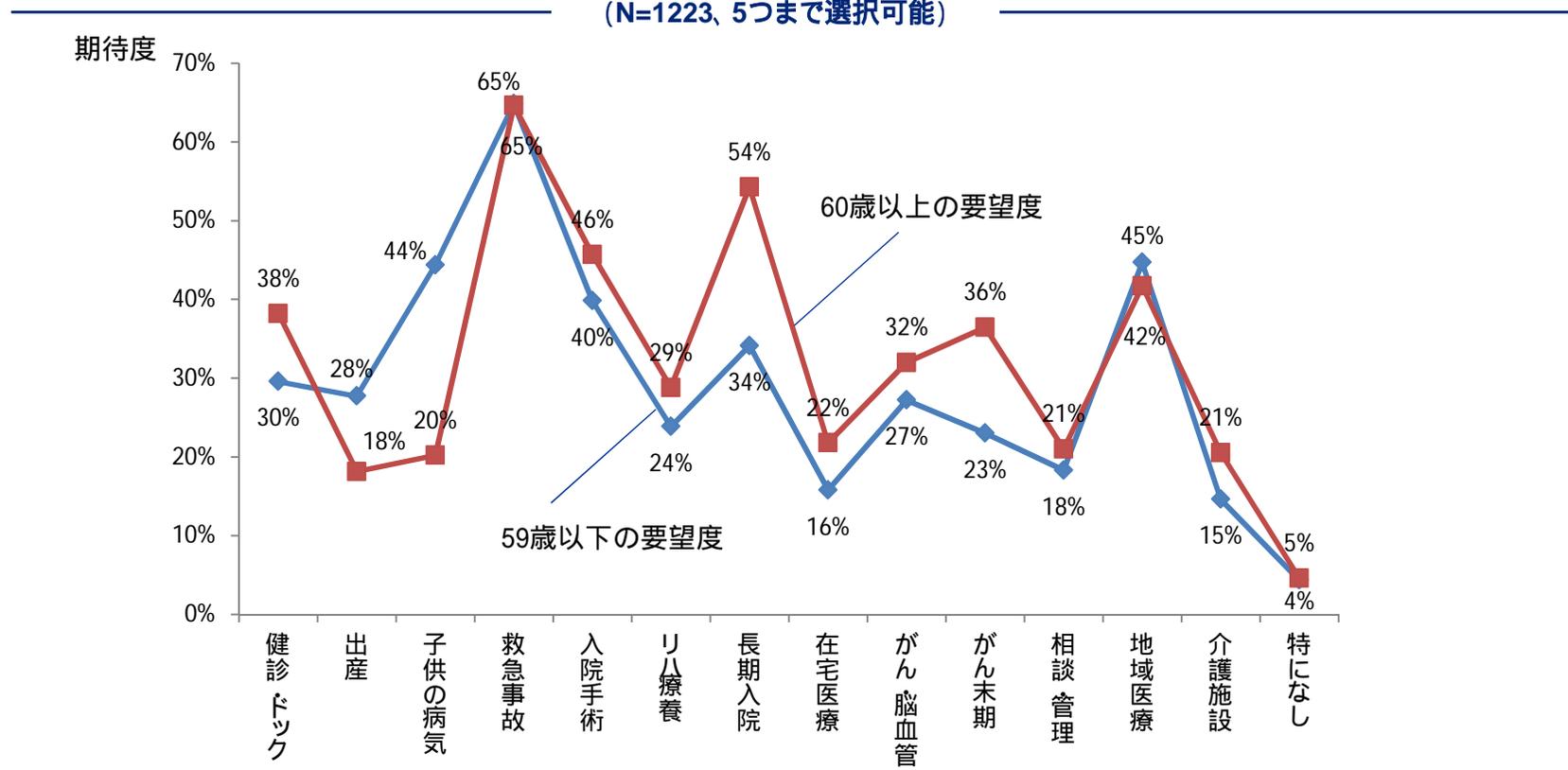
- 継続が望ましいと答えた818人のうち、どこで継続すべきかという問いには、自身の居住地が良いと答えた方が多いのは北部在住と南部在住になっています。中部在住の方については、北部地域（現在地+現在地以外）で継続と答えた方が一番多い結果となっています。
- どこで継続するかについては、北部（現在地+現在地以外の合計）48%、中部23%、南部（JR線以北+JR線以南の合計）23%となっています。

- 北部在住で規模拡大の割合が高く、南に行くに従い、維持の割合が高くなっています。
- 全ての地域において維持・拡大は7割を超えており、縮小は5%となっています。
- 全体（合計790人）は、北部、中部、南部在住の合計となっており、住所地がわからない・無回答の方（28人）は含んでいません。

問6: 市立川西病院に期待する役割

年齢階層別（59歳以下、60歳以上）で期待度を見ると、「子供の病気」「がん末期」「長期入院」では、世代間に開きがありますが、共通して期待度が高いのは「救急事故」となっています。

世代別の川西病院への要望度(%)
(N=1223、5つまで選択可能)



- 上記の期待度は、各項目の回答数を、各年齢層の回答者数で除して算定しています。無効回答や無回答の方は含んでいません。
- 世代を通して一番期待が高いのは、「救急事故」ですが、59歳以下は「地域医療」「子供の病気」が高く、60歳以上は「長期入院」「入院手術」が高くなっています。

質問項目別回答結果

質問項目別の回答結果(問2～問8:文章部分は除く)

問2-A 状況に応じてどの病院に行きたいか

	1.川西病院	2.市内の民間病院	3.市内の診療所	4.市外の医療機関	5.分からない	99.不明、無回答	合計	有効回答合計
病気の予防や早期の発見に力を入れる	329	315	204	295	116	59	1,318	1,259
母子の健康管理や出産に対応してもらえる	204	308	83	190	288	245	1,318	1,073
子供の病気に対応できる	164	268	522	63	129	172	1,318	1,146
夜間救急や交通事故などの救急患者を積極的に受け入れる	436	452	19	168	187	56	1,318	1,262
入院を伴う手術などが行える	345	261	5	460	195	52	1,318	1,266
手術など重度な状態を脱した後、リハビリや療養などを行う	300	439	209	122	194	54	1,318	1,264
長期にわたる入院が必要となった場合に入院できる	446	328	5	285	205	49	1,318	1,269
訪問看護や往診など在宅医療の支援を行う	244	309	372	27	306	60	1,318	1,258
命に関わるような病気の患者が入院できる	252	147	9	622	241	47	1,318	1,271
がんなどで末期を迎えた患者・ご家族の方々に安心できる療養環境を提供できる	275	236	34	315	407	51	1,318	1,267
健康や病気についての相談、予防、治療、疾病管理など総合的なサービスを受けられる	323	270	344	160	169	52	1,318	1,266
	3,318	3,333	1,806	2,707	2,437	897	14,498	13,601

質問項目別の回答結果(問2～問8:文章部分は除く)

問3-A	回答数
1.知っていた	1,207 92%
2.聞いた事がある程度	63 5%
3.このアンケートで知った	30 2%
99.不明、無回答	18 1%
総計	1,318

問3-B	回答数
1.利用したことがある(本人・家族)	914 76%
2.利用したことはない	279 23%
3.覚えていない	1 0%
99.不明、無回答、回答不要	13 1%
総計	1,207

問3-Bで「1.利用したことがある」を選択した方のみ(回答数:914)

問3-C	回答数
1.主に自家用車	656 72%
2.主に公共交通機関	162 18%
3.主に徒歩	70 8%
99.不明、無回答、回答不要	26 3%
総計	914

問3-C(主に自家用車)と住所地	回答数	率
1.北部	185	28%
2.中部	358	55%
3.南部	91	14%
4.不明、他	22	3%
総計	656	

問3-C(主に公共交通機関)と住所地	回答数	率
1.北部	42	26%
2.中部	75	46%
3.南部	36	22%
4.不明、他	9	6%
総計	162	

質問項目別の回答結果(問2～問8:文章部分は除く)

問4 川西病院の評価

問4	0.わからない	1.そう思わない	2.あまりそう思わない	3.どちらでもない	4.まあそう思う	5.そう思う	99.不明、無回答	総計
交通の便がよい	28	633	210	118	130	160	39	1,318
診療日や診療時間が利用しやすい	320	192	218	292	151	78	67	1,318
待ち時間が短い	343	334	284	201	76	23	57	1,318
医療機器や検査機器が充実している	431	110	189	208	250	72	58	1,318
医師の医療技術が高い	479	141	165	255	172	50	56	1,318
患者の立場で考えてくれる病院である	453	130	133	261	224	62	55	1,318
救急医療が充実している	534	166	163	188	161	49	57	1,318
難しい手術などを行っている	611	136	169	145	138	39	80	1,318
なんでも診てもらえる	394	200	222	147	223	61	71	1,318
専門性の高い病院である	439	215	233	205	124	23	79	1,318
ゆったり療養できる	490	129	180	202	193	44	80	1,318
気軽に診てもらえる	343	172	201	208	239	74	81	1,318
親切に世話をしてくれる	453	97	120	246	244	82	76	1,318
他の医療機関との連携がよい	616	84	116	186	186	51	79	1,318
健康や病菌について気軽に相談できる	473	150	159	239	169	49	79	1,318
全体的に見て利用したい病院である	196	298	203	203	242	104	72	1,318

問5 A.川西病院の必要性

A	回答数	率
1.継続	818	62%
2.廃止	70	5%
3.民間へ譲渡	210	16%
4.わからない	158	12%
99.不明、無回答	62	5%
総計	1,318	

問5 B.立地(継続の場合)

B	回答数	率
1.北部	358	44%
2.北部(現地以外)	37	5%
3.中部	190	23%
4.南部(JR線以北)	151	18%
5.南部(JR線以南)	39	5%
6.分からない	29	4%
99.不明、無回答	14	2%
総計	818	100%

問5 C.規模・診療科(継続の場合)

C	回答数	率
1.拡大する	390	48%
2.現状維持	303	37%
3.縮小する	42	5%
4.わからない	69	8%
99.不明、無回答	14	2%
総計	818	100%

質問項目別の回答結果(問2～問8:文章部分は除く)

問6 川西病院に期待する機能・役割・充実して欲しい分野	回答数	率
1.病気の予防や早期の発見に力を入れる	418	8%
2.母子の健康管理や出産に対応してもらえる	280	5%
3.子供の病気に対応できる	391	7%
4.夜間救急や交通事故などの救急患者を積極的に受け入れる	795	15%
5.入院を伴う手術などが行える	528	10%
6.手術など重度な状態を脱した後、リハビリや療養などを行う	324	6%
7.長期にわたる入院が必要となった場合に入院できる	549	10%
8.訪問看護や往診など在宅医療の支援を行う	232	4%
9.命に関わるような病気の患者が入院できる	365	7%
10.がんなどで末期を迎えた患者・ご家族の方々に安心できる療養環境を提供できる	368	7%
11.健康や病気についての相談、予防、治療、疾病管理など総合的なサービスを受けられる	242	5%
12.かかりつけ医と連携して、地域の医療水準の向上に貢献できる	529	10%
13.介護施設等の施設を併設している	218	4%
14.特になし	55	1%
小計	5,294	100%
99.無回答、不明	1,296	20%
合計	6,590	

市立川西病院に関するアンケート調査について

市民の皆様には、日頃から市政に対し、ご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

さて、市立川西病院は、昭和58年に中央町から現在の東畦野地内に移転し、診療科目も内科、外科、整形外科、小児科、産婦人科、耳鼻いんこう科、眼科、泌尿器科、麻酔科、放射線科を開設するなど、本市の基幹的な公的医療機関としての役割を担ってきました。

しかし、地域住民の医療に対するニーズが多様化してきている一方で、医師不足などにより診療体制を縮小せざるを得ない状況となってきたことから、平成21年には「市立川西病院事業経営改革プラン」を策定し、地域医療連携室や消化器内視鏡センターの開設をはじめとする経営の効率化を図ってきたところですが、その後も、医師数に大幅な減員が生じたことにより、入院及び外来患者数が大きく減少し、経営は非常に厳しい状況が続いています。また、平成23年には、改革プランの改定も行い経営効率化への努力を続けていますが、市からの補助金も年々増加しており、病院の経営は深刻な赤字状態が続いています。さらに、現在の市立川西病院は、建設以来29年が経過し、施設や設備の経年劣化や老朽化が進んでおり、今後、多様化する医療需要や医療サービスへの対応が困難となってきたことから、現在、市立川西病院のあり方の検討を進めています。

つきましては、市立川西病院の今後の方針を決定するにあたり参考とさせていただきたくアンケートを実施いたしますので、ご協力をお願いします。

なお、この調査は川西市の住民基本台帳から16歳以上の市民3,000人を無作為に抽出し、調査票を郵送させていただきました。

この調査は無記名によるほか、調査の目的以外には使用いたしませんので、よろしくお願いたします。

平成24年11月27日

川西市長 大塩 民生

<ご記入にあたってのお願い>

- このアンケートは、送付させていただいた**ご本人**が、過去又は現在、市立川西病院を利用されている、利用されていないにかかわらずお答えください。
- なお、ご本人にお答えいただくことが困難な場合は、ご家族の方がご本人のことやお考えについてご記入いただいても結構です。
- 回答は、あてはまる番号に をつけてください。また()内には具体的な内容のご記入をお願いします。
- この調査票は、**両面印刷**になっています。ご記入漏れのないようご注意ください。
- ご記入後は、同封の返信用封筒に入れて、12月17日(月)までに、郵便ポストに投函してください。(切手は不要です)
- この調査についてのお問い合わせは、下記までお願いします。

(問い合わせ先) アンケート調査に関すること
川西市 総合政策部 政策課
TEL 072-740-1120

病院経営・診療に関すること
市立川西病院 経営企画室
TEL 072-794-2321

ここからは、市立川西病院についてお聞きします。

問3-A 川西市に市立川西病院（川西市東畦野・能勢電鉄山下駅徒歩15分）があるのをご存知でしたか？ 当てはまる番号に 印をつけてください。

- 1. 知っていた 問3-Bへ
- 2. 聞いた事がある程度 問4へ
- 3. このアンケートで知った 問4へ

問3-B 「知っていた」と回答された方にお聞きします。市立川西病院を利用されたことはありますか。

- 1. ご本人またはご家族が利用したことがある。 問3-Cへ
- 2. 利用したことはない。 問4へ
- 3. 覚えていない。 問4へ

問3-C 問3-Bで「1」を回答された方にお聞きします。病院には主としてどのような交通手段で来られましたか。番号1つを選んで を付けてください。

- 1. 主に自家用車（ご本人またはご家族が運転）
- 2. 主に公共交通機関（電車、バス、タクシー）
- 3. 主に徒歩（自転車含む）

問4 市立川西病院を利用されたことがある方はその時の経験をもとに、そうでない方は評判やイメージをもとに、次の項目を5段階で評価し、該当すると思われる番号に 印をつけてください。

	そう 思う	そう まあ 思う	ど ち ら も な い	あ ま り そ う 思 わ な い	思 わ な い そ う	わ か ら な い
交通の便が良い	5	4	3	2	1	0
診療日や診療時間が利用しやすい	5	4	3	2	1	0
待ち時間が短い	5	4	3	2	1	0
医療機器や検査機器が充実している	5	4	3	2	1	0
医師の医療技術が高い	5	4	3	2	1	0
患者の立場で考えてくれる病院である	5	4	3	2	1	0
救急医療が充実している	5	4	3	2	1	0

裏面に続く

	5 4 3 2 1 0	4 3 2 1 0	3 2 1 0	2 1 0	1 0	0
難しい手術などを行っている	5	4	3	2	1	0
なんでも診てもらえる	5	4	3	2	1	0
専門性の高い病院である	5	4	3	2	1	0
ゆったり療養できる	5	4	3	2	1	0
気軽に診てもらえる	5	4	3	2	1	0
親切に世話をしてくれる病院である	5	4	3	2	1	0
他の医療機関との連携が良い	5	4	3	2	1	0
健康や病気について気軽に相談できる	5	4	3	2	1	0
全体的にみて、利用したい病院である	5	4	3	2	1	0

問5 市立川西病院は、今年で築29年となることから、今後10年以内に建て替えの必要性が想定されています。(建て替えの場合は川西市から多額の補助金が必要となります。)
 今後の市立川西病院のA.必要性、B.立地(継続の場合)、C.規模・診療科(継続の場合)について、それぞれ望ましいと思われる番号1つに印をつけてください。

A.必要性	B.立地 (継続の場合)	C.規模・診療科 (継続の場合)
1. 継続 (B. C.へ)	1. 北部 (現在地)	1. 拡大する
2. 廃止 (問6へ)	2. 北部 (現在地以外)	2. 現状維持
3. 民間に譲渡 (問6へ)	3. 中部	3. 縮小する
4. わからない (問6へ)	4. 南部 (JR線以北)	4. わからない
	5. 南部 (JR線以南)	
	6. わからない	

北部・中部・南部の地域分けは、5ページの小学校区エリアを参考にしてください。

問6 市立川西病院に、特に期待する機能・役割や充実してほしい分野には具体的にどのようなものがあるでしょうか。下記の中から5つ以内で選び、該当する番号に 印をつけてください。

1. 病気の予防や早期の発見に力を入れる（健康診断や人間ドックなどの充実）
2. 母子の健康管理や出産に対応してもらえる
3. 子供の病気に対応できる
4. 夜間救急や交通事故などの救急患者を積極的に受け入れる
5. 入院を伴う手術などが行える
6. 手術など重度な状態を脱した後、リハビリや療養などを行う
7. 長期にわたる入院が必要となった場合に入院できる
8. 訪問看護や往診など在宅医療の支援を行う
9. 命に関わるような病気の患者が入院できる
10. がんなどで末期を迎えた患者・ご家族の方々に安心できる療養環境を提供できる
11. 健康や病気についての相談、予防、治療、疾病管理など総合的なサービスを受けられる
12. かかりつけ医と連携して、地域の医療水準の向上に貢献できる
13. 介護施設等の施設を併設している
14. 特になし

問7 その他、市立川西病院に対するご意見やご要望などがありましたら、ご自由にご記入ください。

問8 ご意見をお聞きするのはこれで終わりですが、統計的分析に必要なため、該当する番号に 印をつけてください。

(1) あなたの性別	1. 男性	2. 女性	
(2) あなたの満年齢	1. 16～29歳	2. 30～39歳	3. 40～49歳
	4. 50～59歳	5. 60～69歳	6. 70～79歳
	7. 80歳以上		

(3) あなたのお住まいのエリア(下表参照)	1. 北部 2. 中部 3. 南部 4. わからない() わからない場合は住所を記入してください()
(4) あなたのご家庭では、自動車を保有していますか。(いずれか1つに印をつけてください。)	1. 保有している(自分で運転する) 2. 保有している(自分は運転せず、家族だけが運転する) 3. 保有していない

エリア名	小学校区	該当地区
北部	東谷	見野1丁目～3丁目、東畦野1丁目～6丁目、東畦野山手1丁目・2丁目、西畦野1丁目・2丁目、山原1丁目・2丁目、緑が丘1丁目・2丁目、山下町、笹部1丁目～3丁目、下財町、一庫1丁目～3丁目、東畦野(長尾を除く。)、西畦野、山原、山下、笹部、一庫
	牧の台	大和東1丁目～5丁目、大和西1丁目～5丁目、東畦野字長尾、長尾町
	北陵	美山台1丁目～3丁目、丸山台1丁目～3丁目
	黒川	国崎、黒川、横路
中部	多田	新田、矢問1丁目～3丁目、矢問東町、西多田(明峰小学校区を除く。)、西多田1丁目(1番・2番を除く。)、西多田2丁目、多田院(清和台南小学校区を除く。)、新田1丁目～3丁目、多田院1丁目・2丁目、多田院多田所町、多田院西1丁目、多田院西2丁目(5番を除く。)
	多田東	東多田、平野、鼓が滝1丁目～3丁目、東多田1丁目～3丁目、多田桜木1丁目・2丁目、平野1丁目～3丁目
	緑台	緑台1丁目～5丁目、緑台7丁目、向陽台1丁目・2丁目
	陽明	緑台6丁目、向陽台3丁目、水明台1丁目～4丁目、清流台
	清和台	石道、虫生、赤松、清和台東1丁目～3丁目、清和台西1丁目・2丁目
	清和台南	柳谷、清和台東4丁目・5丁目、清和台西3丁目～5丁目、多田院字滝ヶ原・駒塚・井戸ヶ上、多田院西2丁目5番
	けやき坂	芋生、若宮、けやき坂1丁目～5丁目
明峰	滝山町8番、萩原2丁目・3丁目、萩原台東1丁目・2丁目、萩原台西1丁目～3丁目、鶯が丘、西多田字上平井田・湯山裏・南野山、西多田1丁目1番・2番、錦松台、鶯台1丁目・2丁目、湯山台1丁目・2丁目、南野坂1丁目・2丁目	
南部	久代	久代1丁目～6丁目、東久代1丁目・2丁目
	加茂	南花屋敷1丁目～4丁目、加茂1丁目～6丁目
	川西	小花1丁目・2丁目、小戸1丁目～3丁目、栄町24番～27番、寺畑1丁目・2丁目、栄根1丁目・2丁目、下加茂1丁目・2丁目
	桜が丘	中央町、日高町、栄町(24番～27番を除く。)、花屋敷山手町、花屋敷1丁目・2丁目、満願寺、満願寺町
	川西北	美園町、絹延町、出在家町、丸の内町、滝山町(8番を除く。)、鶯の森町、萩原1丁目、火打1丁目・2丁目、松が丘町、霞ヶ丘1丁目・2丁目

アンケートは以上です。誠にお手数をおかけしますが、**同封の返信用封筒に本アンケート用紙を折り込み、ご投函ください。** ご協力ありがとうございました。

～アンケートを始める前にお読みください～

市立川西病院の現状と川西市の財政状況について

(1) 市立川西病院の現状

市立川西病院の役割

市立川西病院は、本市の基幹的な公的医療機関として、地域住民の医療ニーズに応えるべく、救急医療、小児医療、周産期（妊娠・分娩）医療などの不採算・特殊部門に関わる医療の提供を行うなど、公立病院としての役割を果たしています。また、当院の位置する市北部においては、200床以上の一般病院がほかになく、当院は、市北部エリア及び本市に隣接する猪名川町、能勢町、豊能町の入院機能提供の中心的役割を担っています。

1) 施設概要

所在地	川西市東畦野5丁目21番1号		
開設年月日	昭和58年10月4日		
敷地面積	14,936.06㎡		
建物	病院本館	地上5階/地下1階	14,540.10㎡
	看護宿舎・保育園	地上5階	1,491.73㎡
	医師住宅	地上2階	317.84㎡

2) 診療科 内科(循環器内科、消化器内科、糖尿病・内分泌内科)、小児科、外科、整形外科、産婦人科、耳鼻いんこう科、眼科、泌尿器科、麻酔科、放射線科

3) 病床数 250床(一般 229床、緩和ケア 21床)

4) 病棟	3階北	35床(産婦人科、眼科、内科、未熟児・新生児室)
	3階南	44床(小児科、眼科、内科)
	4階北	50床(病棟休床)
	4階南	49床(外科、泌尿器科、内科)
	5階北	21床(H25/1～緩和ケア)
	5階南	51床(内科)

5) 平成23年度末職員数 合計283名

医師	: 37名
看護師(助産師、看護師、准看護師)	: 165名
医療技術職員(診療放射線・臨床検査技師他)	: 49名
事務職員(経営企画課、医事課、地域医療連携室)	: 22名
技能労務員(施設管理員、調理師)	: 2名
保育士、相談員、診療情報管理士	: 8名

※上記職員数には、嘱託・臨時職員数を常勤換算した数値を含みます。

川西市周辺の医療機関の状況



川西市	
1	市立川西病院
2	協立温泉病院
3	ペリタス病院
4	協立病院
5	第二協立病院
6	自衛隊阪神病院
宝塚市	
7	こだま病院
8	東宝塚さとう病院
9	宝塚第一病院
10	宝塚市立病院
11	宝塚病院

伊丹市	
12	市立伊丹病院
13	近畿中央病院
池田市	
14	市立池田病院
箕面市	
15	ガラシア病院
16	巽今宮病院
17	箕面市立病院

■ 市立川西病院
● 他病院
 一般病床を保有する総病床数100床以上の病院を掲載しています

地域住民の医療に対するニーズが多様化してきている一方で、当院が提供する医療資源は、医師の退職が相次ぎ、診療体制を縮小せざるを得ない状況となっています。現在、近年の診療報酬のマイナス改定や、医師不足などにより収入が落ち込み、慢性的な赤字体質となっています。

病院の経営の建て直しを図るべく、平成 21 年に病院事業経営改革プランを作成し、改革に取り組みましたが、その後も医師の退職が続き、入院及び外来患者数が大きく減少しています。平成 23 年には、改革プランの改定も行い経営効率化への努力を続けていますが、市からの補助金も年々増加しており、病院の経営は深刻な赤字状態が続いています。さらに、現在の市立川西病院は、建設以来 29 年が経過し、施設や設備の経年劣化や老朽化が進んでおり、今後、多様化する医療需要や医療サービスへの対応が困難となってきます。

市立川西病院の患者数及び病床利用率

市立川西病院の患者数は、過去 3 年間で減少傾向にあります。また、平成 21 年度当初から内科、外科、耳鼻いんこう科の医師が退職し、続いて、平成 22 年度及び 23 年度には整形外科の医師が退職しています。

	H21 年度	H22 年度	H23 年度
1 日あたり外来患者数	609 人	557 人	488 人
1 日あたり入院患者数	164 人	158 人	137 人
許可病床数*	283 床	283 床	283 床
運用病床数**	201 床	201 床	164 床
病床稼働率（運用）	82%	79%	84%

*許可病床数：保有しているベッド数

**運用病床数：看護師等の配置があるベッド数

市からの補助金の状況

毎年度、9億円を超える補助金を市の一般会計（教育や福祉などを行う基本的な市民サービスの会計のこと。以下同じ）から繰り入れています。

平成23年度の繰入金総額は11億1,758万円で、前年度に比べ1億2,084万円(12.1%)増加しています。収益的収入分は、主に救急医療態勢経費1億7,300万円、小児医療経費1億3,700万円、周産期医療経費1億3,300万円、医師確保対策経費1億1,400万円などに充てており、資本的収入分は、企業債償還元金2億9,052万円、建設改良費3,000万円に充てています。

	H21年度	H22年度	H23年度
収益的収入分	6億9,438万円	7億2,005万円	7億9,705万円
資本的収入分	2億7,051万円	2億7,668万円	3億2,052万円
繰入金総額	9億6,490万円	9億9,673万円	11億1,758万円

市立川西病院の経営状況

現在、市立川西病院に限らず、病院経営は厳しい環境に置かれています。とりわけ、公的病院は、救急医療や小児医療などのいわゆる政策医療のほか、不採算の医療を抱えているため、大部分の公的病院が赤字となっています。市立川西病院においても、長年にわたり赤字経営が続いています。市立川西病院は、市から毎年度補助金を受けていますが、それでもなお、赤字額は毎年3～4億円を計上しています。

なお、現在の累積欠損金（累積赤字）は、平成23年度の赤字額3億7,592万円を加え、65億7,786万円になっています。

	H21年度	H22年度	H23年度
総収益（A）	42億6,338万円	43億5,995万円	41億2,537万円
総費用（B）	46億9,061万円	47億2,008万円	45億129万円
差引損益(A)-(B)	4億2,723万円	3億6,013万円	3億7,592万円

市立川西病院の施設・設備の状況

病院は建設以来29年が経過し、今後も使用し続けるのであれば、建物・設備の老朽化に伴い10年以内には大規模な改修工事が必要と想定されます。改修工事にかかる費用も毎年の補助金に加えて、市からの負担で賄うことになります。

また、仮に建て替えを行った場合の建築費用（医療機器費を含み、用地費は除く。）は、現在の病床数250床で試算すると約90億円（近隣の自治体病院整備試算単価35,963千円/床で算出）となります。

（2）川西市の財政状況について

平成23年度の決算は、一般会計では基金（特定の目的のために積み立てや運用をしている資金。以下同じ）から繰り入れを行った結果、実質収支額が3億7,375万1千円の黒字となり、平成22年度と比較すると1億22万円の減となっています。

また、特別会計は6事業合計で5億2,826万6千円の赤字となっていますが、このうち、国民健康保険事業が7億717万9千円の赤字となっています。

一方、中期財政収支計画（平成24年11月現在）では、平成24年度以降は、納税対象とな

る人口の減少により、個人市民税の減収が続く、歳出においては、社会保障経費の増加や、公債費の増加による負担が大きく、借り換えによる公債費負担平準化や、地方債発行などによる学校耐震化の負担の平準化を行っても、平成25～29年度の5年間で49億600万円の収支不足が見込まれます。

これらの財源不足を補うため、行財政改革を実行していくこととしていますが、収支均衡を図るためには、毎年度、基金の繰り入れが必要な状況となっています。

公債費とは、市が公共施設を整備するためなどに借り入れたお金（市債）の元利償還費と一時借入れ金の利息の合計をいいます。

平成23年度(2011年度)決算総括表

(単位:千円)

区分	歳入決算額	歳出決算額	歳入歳出 差引額	翌年度へ繰り 越すべき財源	実質収支額	22年度実質収 支額	増減	
	(A)	(B)	(C) = (A) - (B)	(D)	(E) = (C) - (D)	(F)	(G) = (E) - (F)	
会計								
一般会計	47,608,391	47,219,642	388,749	14,998	373,432 373,751	473,464 473,971	100,032 100,220	
特別会計	国民健康 保険事業	16,475,447	17,182,626	707,179	0	707,179	679,932	27,247
	後期高齢者 医療事業	2,008,410	1,962,643	45,767	0	45,767	70,796	25,029
	農業共済 事業	11,838	11,838	0	0	0	0	0
	介護保険 事業	9,177,913	9,044,767	133,146	0	133,146	184,455	51,309
	用地先行 取得事業	2,425,387	2,425,387	0	0	0	0	0
	中央北地区土 地区画整理事業	1,768,451	1,747,024	21,427	21,427	0	0	0
	特別会計 合計	31,867,446	32,374,286	506,840	21,427	528,266	424,681	103,585
一般・特別 合計	79,475,837	79,593,928	118,091	36,425	154,834 154,515	48,783 49,290	203,617 203,805	

(注) 23年度一般会計実質収支額上段は、翌年度に返還する災害援護資金貸付金(阪神・淡路大震災の被災者への貸付金)返還金(319千円)を除いた実質収支額である。

(注) 表内において、各項目の合計と合計欄の数値が端数処理により一致しない場合がある。(以下の表についても同じ)

中期財政収支計画での収支不足額

(単位:百万円)

	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	合計
歳入総額	31,977	32,319	32,327	32,487	32,584	161,694
歳出総額	33,628	33,617	33,401	32,851	33,103	166,600
収支不足額	-	1,651	1,298	364	519	4,906

以上

市立市民病院

6年ぶり黒字見込み

地方独立行政法人化2年目

本年度 開業医との連携奏功

2011年秋に地方独立行政法人に移行した市立市民病院(鷹匠町)の決算が本年度、6年ぶりに黒字に転じる見通しになっていることが分かった。同病院は、開業医との役割分担を進め、高度な急性期医療への特化に成功しつつあることが経営改善につながったと分析。また、不足していた医師数が増え、救急の受け入れ体制が向上したことも功を奏した。

(小林良多)

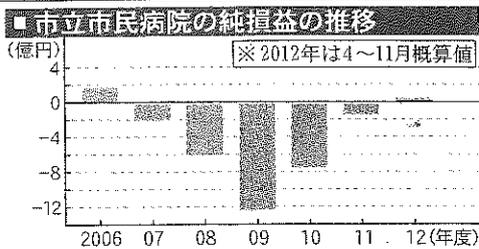
同病院では、医師の退任が相次ぐなどしたため診療体制が縮小。黒字だった会計は07年度に赤字に転落し、09年度には赤字幅が12億円超にまで膨らんだ。

市は立て直しを期し、11年10月、従来の市直営方式から、病院が課題に臨機応変に対応できる地方独立行政法人に移行。無駄の見直しなど経営効率化を進めた。生まれ変わる病院の運営方針を示す中期計画では、高度な急性期医療に特化するため、地域の開業医との役割分担などを重視した。

例勉強会も開いている。その効果は昨年10月ごろから表れ、外来初診患者の紹介率は独法化前と比べ10割上昇し6割を超えた。また、医療の要となる医師数も戻りつつある。

最も少なかった10年の43人と比べ、内科や消化器内科、小児科などの医師が増え、計50人体制となった。これらが収益の改善につながり、12年4月11月の純損益(概算値)は5500万円の黒字となった。

同病院は「外来初診患者の紹介率など、中期目標で掲げた数値のいくつかをクリアできる見通しで、いい滑り出しができた。地域医療の核となるよう機能を高めたい」としている。



独法化後は、患者に「かかりつけ医を持つて」と呼び掛ける一方、開業医と情報交換を密にする仕組みを構築。定期的な症

市民フォーラム「どうなる? 明石市立市民病院」

(市医師会主催)がこのほど、中崎1の市立市民会館で開かれ、約250人が参加した。地方独立行政法人に移行して2年目を迎えた同病院が「医療機能復調」の兆しを見せていることについて報告があり、医師をさらに増やすための課題などを識者が発表した。

(小林良多)

基調講演では全国自治体病院協議会の中島豊爾副会長が、国が推し進める公立病院の経営改革について説明。抜本的な体質改善が求められている状況を紹介しながら、「最終的に自治体病院は経営的数値より、課せられた使命を果たすことを優先すべき」と指摘した。

また、市民病院の藤本

市民病院の「改革」状況報告

市民会館フォーラムに250人



荘太郎院長らが参加したシンポジウムでは「地域医療を支える役割が求められている」と自治体病院の責任に触れ、座長を

公立病院の役割や課題について話し合ったフォーラムは市立市民会館

務めた市医師会の橋本寛副会長は「改革に失敗すれば何でも民に、という流れは疑問だ」と述べた。

続いて、医師を増やすアイデアとして、女性医師のための職場環境を整備すべきなどの提案があり、「若い医師が働きたいと思える病院を地域全体でつくる必要がある」と訴える意見があった。